

地域の企業の魅力を子供たちに伝えることで、将来的なUターン就職を促す。

「きらりと光る企業」を体験を通じて知ることが重要。

(3)プログラムの設計と参加のあり方

フル参加型と部分参加型(希望プログラムのみ)の柔軟な設計。

地域ごとの同時開催や、地域特性を活かしたプログラム展開の提案。

(4)発信とアウトプットの重要性

子供たちが体験を即時的に発信する機会を設ける(例:SNS、学校の授業)。

子供目線での発信が、他の子供たちの参加意欲を高める。

Astra! 専用ページや Instagram など、発信の場の整備が必要。

(5)公平性と多様性の確保

都市部やリーダー層に偏らない参加者選定。

不登校児童や特別支援学校、フリースクールの子供たちにも門戸を開く。

「活躍したい」という意志を重視した選考基準の提案。

(6)資金調達と持続可能性

海外研修には高額な費用がかかる(例:1000万円規模)。

保護者負担に偏らない資金設計が必要。

クラウドファンディングや企業協賛、県の予算支援など多様な資金源の模索。

(7)教員の関わりと研修

教員もプログラムに同行・参加することで、価値観を耕す機会に。

地域とのつながりを築くロールモデルとしての教員の役割。

教員向けのグローバル視点を育む研修の必要性。

(8)探究的な学び

中学生以降は自ら課題を設定し、プログラムを設計する探究型学習へ。

「押しつけ」ではなく「自分でつくる学び」を重視。

3 ディスカッションの記録

英語 世界に出ていく 小学校での英語の学び 外国人と話す機会少ない

学んだことを外に出す機会がない 学んだことを生かすことでリアリティある学びに

本物の英語に触れる

アジア圏の子供たちの英語力高い

長野の子供たちの刺激にもなるのではないか

英語の大事さ

海外に出ている企業多い グローバル 境目はなくなっている お客さんも海外からが多い
英語教育 当たり前になっていく時代 子供のほうが抵抗がない
子供のほうが柔軟 柔らかいうちに育てていくこと必要
年齢が高くなると自分には関係ないという思いも
柔軟に頭の柔らかいうちに体験をしていくこと

県内で働く人材

林業の現場 長野県の山間 海外の林業の取組を知ってもらうこと
林業に触れることの価値 森林組合18 地域で守り続けている材木を集荷販売している
学校 環境教育の一環として森林の役割 二酸化炭素の排出抑制 知っていただく機会
地域の学校は地域の森林組合とともに取り組んでいる学校もある
環境守っている林業というものを知ってもらえれば

自然保護の観点から切ってはいけないという時代もあったが、今は、時間がたち使える木が育ってきた
長野県の学校 森の中林の中 親和性高い

グローバル

子供たちが世界に出ていくこと大事 多様な価値に触れる 大事
家族では海外に行くことはあってもそれは観光 学ぶ機会少ない
現地の人との交流 価値観に触れる 広い視点でものを見る
多様なものに触れていくことに意味がある

Astra! の事業に取り入れるべきこと

地域を知ること 輝いている企業県内にたくさんある知ってほしい
県外に出ってしまう子供たち 外へ出たとしてもいずれ帰ってきてほしい
長野県にこんな企業があるよねと知っておいてほしい
きらりと光る企業のことを知っておいてほしい 体験を通して良さを知っておいてほしい

その経験が県内に戻ってくることもつながる

人がいないことは長野県としても課題 将来を担う人材ほしい 育てほしい

県内企業の魅力を知ってほしい

年間を通して15名 もう少し広げることはできないか

年間のプログラム 地域の企業での体験などは活用することも可能か

核になるプログラムは15名でも、各プログラムには参加を募ってもよいのではないか

柔軟な参加の仕方を

フルパッケージと、参加希望のプログラム

魅力ある企業 地域の企業のことは子供たちは知っている しかし、地域であって長野県という視野までは

広がっていない プログラムにわくわく感を 例えば須坂だけではなく長野県なかなかいいぞと

例えば4つの地区で 同時各地区開催なども

林業も 学有林を持っている学校もあるが そうでない学校も

東信ならカラマツ しかし他地域だと材も異なる 地域による違いを知ることも

発信していくことも大切 情報発信

中学ではキャリア教育とも絡めて

2月の発表会を待たず 体験したことを即時的にアウトプットしていく

子供たちも発信したい

学校でもそうした発信を生かして授業に生かすことも

県教委のホームページアップ

子供も感動すれば発信したくなる

子供たちの生の感じたこと 五感をもって感じたことを発信していくこと

県教委のホームページに Astra! の専用のページを作ったらどうか

インスタグラム等で発信していくことも

インスタグラムなら取りに行かなくても

学校職員ではなく子供同士が見ること

参加した子供たちが感想を即時的に それを見た子供たちが私も来年参加したいと

林業もアピールしていかないと
大人目線ではなく子供目線、子供の感性で

子供の願いを企業が取り上げてくれたりすれば、僕も長野県で働きたいと
生の声を発信できる YouTuber

事業を進めていく上で懸念点

都市部の子供たちだけが選抜されてしまうと長野県らしくない
各学校のリーダーを集めるのではなく 長野県で活躍したいということを基準に
広く声をかけたい
学校に足が向かない子供でこの事業には参加したいなとなったらすごいなと
特別支援学校、フリースクールなどにも広く声をかけていきたい

寄付「ガチなが」だけでは、あまり期待はできないか

良いアイデアはないか

いくらかかる？

海外研修で1000万円程度 全体で2000万円弱

広く子供たちにといいつつ保護者負担となるとあきらめることにも

裕福層のみでは意味がない

集まらなければ集まったお金でできるプログラムも

海外に出ていくだけでなく 海外から来て長野県で活躍している方との交流

しかし何とか空を飛びたい

せっかくAstra(アストラ)！というネーミングでもあるので

趣旨をご理解いただいて協力を クラウドファンディングできないか

独自ではやりにくい 本当はやりたい 交渉していきたい

教育委員会だけでなく 県としてもお金を出してもらおう 知事にも来ていただいている

共催を募っていくこと 産官学の事業として

協賛してくれる方多いのではないか

趣旨の理解はいただいている それをどう寄付に結び付けていくか

趣旨の説明の仕方 お願いの仕方 伝え方

お宅でいくらとは言えないが 趣旨を説明して協力してくれないかと

人材育成 人材の確保 趣旨の説明が大切

事業として予算化の必要があるか 全部寄付というのも難しいか

プログラム 事業の制度の設計をいただいた意見をもとに研究していきたい

参加できる子供たちは幸せだな

先生方はどうする グローバルな視点 先生方の価値観を耕すような研修

先生方も一緒に行くことは可能か

各学校の中で地域の方つながっていくということのロールモデルとなれば

参加可能なプログラムには先生方にも参加していただく

ニュージーランドに行くプログラムも始まっている

北相木 オーストラリア行っている 全校

林業 時期 良さを感じてもらえるような時期 早めに日程を決めてもらうこと

今の時期なら植樹祭 夏だと下草狩り

一番いい時期は、

秋なら秋のプログラムはできる 早めに時期を決めてもらえれば

土日 平日 平日のほうがいい

企業も休日だと動いていないということも

規模の大きいところばかりではなく 相談もさせてもらいながら 時期の問題もある

時期も 相手の都合もある 早めに相談を

長野県の良さ ピンポイントではなく年間を通しての帯で行ってはどうか

県教委でプログラムを作るのではなく 中学生くらいになれば自分でプログラムを作っていくこともでき

る それに協力できる企業なりをつないでいく

プログラムそのものを探究的なプログラムにしていく

お客様ではなく 自分で課題を掲げプログラムを作っていく

自分の自己課題に沿って

探究県長野と言いながら 押しつけのプログラムでは

時間と空間 林業 一点だけではよさもわかりづらい
つながりが見えるように工夫しないと全体が見えてこない
木が育つには 50 年かかる